

「事故を発生させない運転担当者の役割」の研修を行いました

～相模原南児童ホーム

平成 28 年 7 月 13 日、19 日 乳児課・児童課・健康管理課 職員 計 52 名

講師：下鳥副所長

場所：相模原南児童ホームにて

①研修の目的

- ・平成 27 年度の公用車事故は、4 件であった。内 3 件が内輪差にて障害物に接触している事故であった。原因としては、サイドを良く確認していないことが挙げられる。これらの事故では、雨の日で視界が見つづらい状態にあった、周囲の障害物に気をとられていたなどがあるが、もしも子どもが横にいたらと考えると大変危険なことである。サイドミラーが自身に合っていたのかどうか、シートの座る位置が合っていたのかどうかも疑問である。
従って、研修の目的は以下の通りである。
 - ①サイドに子どもが居るかもしれないという危機意識を持つこと。
 - ②「子どもの命を預かって運転している（運転業務）」という意識を持たせること。
 - ③「防衛運転」を実践できるように理解させること。

②研修の内容

振り返り : 過去の公用車事故事例を取り上げ原因を追究する。

知識として : 「防衛運転」を理解する。

実技 : 運転前点検並びに運転前準備（座席シートを自分に合わせる、バックミラーや、サイドミラーを適切な角度に調節する。）を確実にを行う。

知識



過去の公用車事故事例を取り上げ、原因を追究しました。また、地域にてよく通る注意しなければならない道や危険な場所を皆で共有しました。

さらに、「防衛運転とは、どのような運転をすることを言うのか学びました。

例えば、走行中にボールが道に転がってきたら、次に子どもが飛び出してくると想定することなど。

実技



座席シートの調整

正しい運転姿勢をとることは安全運転に繋がります。

咄嗟にブレーキを踏まなくてはならない事があるかもしれません。その時に座席シートが自分に合っていないと、しっかりしたブレーキを踏むことができないのです。

座り方：シートと腰の間をしっかりと埋めるように深く腰掛けるのがポイントです。

バックレスト（背もたれ）の角度調整：上体の位置が倒れすぎているとハンドルが遠すぎて危険。角度をひじ関節にゆとりが得られる位置まで起こせば、スムーズな運転操作が可能です。



サイドミラーの位置調整

サイドミラーは左右後方の道路が映り、そこに自分の車の一部（車体の3分の1程度）が映るように調整すると後続車との距離感がつかみやすくなります。

手動のミラーも運行前にしっかり左右のサイドミラーを調整します。

車の後ろに三角コーンをおいて、バックミラーの調整も行いました。





ルームミラーの調整

基本的には、ミラーの中心とリアウィンドウ（後ろの窓）の中心が合うように左右をあわせればOK。

後続車の位置が確認しやすくなります。

《職員の声》

- ・前回同様、防衛運転の方法はとても分かりやすく実践しやすいと感じました。前回の研修で防衛運転のことで知り、歩行者の動きを注意し、左折時は単車、自転車、人がいると意識して運転をしていました。意識して運転するようになってからは、ヒヤリとすることが少なくなったと実感しています。ミラーの位置は、正しい位置を意識して合わせるように心がけたいと思います。ミラーでは見えない死角があることも改めて研修で確認したので、今後は常に頭に入れて運転しようと思います。（児童課職員）
- ・日中保育では、職員2人で外出することが多いので、駐車する時、バックする時には、一人が車より降りて、前後を確認することを徹底しなければならぬと思いました。また、ミラーで後方確認をしても、三角コーンが完全に死角に入り、全く見えないということも分かり、怖いと思いました。一人での運転の時には、目視での確認とスピードを落として注意していきます。（児童課職員）
- ・車には死角があるということを再認識して十分な確認を丁寧に行っていきます。（健康管理課職員）
- ・乳児は大人の制止を払って車の近くで遊ぶという場面がほぼなかったので、施設内に入れば安心と思いがちになっていた。2歳以上の子どもが増えてくる中で、死角に子どもが立っているかもしれないという意識を常にもって運転にのぞみます。大人が複数いる時には、1人が車外の安全確保にまわるなど役割分担として取り組みます。（乳児課職員）